



回顧展

別府貫一郎が描いたイタリア

L'Italia nei quadri di Beppu Kan'ichirō

2026.4.2 ㊟ 4.23 ㊟

10:30-17:30 (休室日: 日曜日、4/6)

イタリア文化会館エキジビジョンホール【入場無料】

千代田区九段南 2-1-30

(東京メトロ東西線、半蔵門線、
都営新宿線「九段下駅」(出口2)
徒歩約10分)

会館HP



会館地図



主催

別府貫一郎回顧展及び
関連シンポジウム実行委員会

イタリア文化会館



後援

公益財団法人日伊協会



2026年は日本とイタリアの国交樹立160年にあたります。洋画家別府貫一郎(1900-1992)は、戦前の1928年に欧州に渡り、人生の多くの時間をイタリアに住み、ヴェネツィアを中心にナポリ、ローマ、フィレンツェなどの風景を描き続け、日伊の交流にも大きな足跡を残しました。没後34年。ご遺族の全面的な協力を得て、約40点の油彩画による回顧展を開催いたします。

佐賀県生まれの別府貫一郎は1921年に上京し、川端画学校に通い、藤島武二の指導を受けました。1926年春陽会賞を受賞し注目を浴びた後、1929年から5年間、ナポリを中心にイタリアに滞在しました。戦後は日本の美術界の中核で活躍しましたが、再びイタリアに戻り、ヴェネツィアの地にて自由な立場で絵を描き続けました。別府は学究肌でもあり、明治時代にヴェネツィアに住み日伊文化交流に努めた日本の先人達の足跡を丁寧に調べ上げました。また、戦前戦後にわたり、イタリアを題材とした多くのエッセイを、雑誌、新聞に寄稿しています。イタリアを愛し、その美しい諸都市の風景を闊達な筆致で情熱的に描き続けた別府貫一郎の作品と人としての魅力に、ぜひ触れていただきたく思います。

